

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 アコオ憩いの家 倉敷三田

日付 平成 20年 4月 21日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

社長は長年ハウスメーカーで住む人の生活についての仕事に携わっており、最後には介護に関連した仕事をしてきたが、独立して現在の資産運用のコンサルティング会社を設立した。そして、倉敷市三田で事務所を持って4～5年経った時、地域に密着した事業で、高齢者に貢献できるグループホームをこの地で作り、一人ひとりに対応できるケアをしていきたいという思いを持っている。社長は“社会人としてのわかまえを持ち、仕事人としての高い意識を持つ”ことを念頭にして、日常の業務はスタッフに任せていた。

この思いを受け継ぎ、ホームの施設長は10年余り特別養護老人ホームでの経験からこのホームに来て、平成19年4月からこのホームを運営してきた。1年目は“落ち着いて援助していこう”という目標に、利用者に家で生活していると同じ気持ちでホームで過ごしてもらいたいと職員一同で支援してきた。「利用者と話をする。話をよく聞いてあげる。マンツーマンで話している会話の中で、その人を発見する。その人の気持ちや希望を見つける。そして思っていることをやってみる。やってみて考える」と言う。徘徊していた人がホームに帰って「家に帰ったね」と云ってくれると嬉しい。色々なことを体験しながら、理想と現実とのギャップ、スタッフとのギャップを感じながら一步一步ホームの改良に努めてきた1年であった。

現在の利用者は、要介護1～3の人で16名を占め、昭和生まれの人が5人居る。比較的認知症の症状も軽い人が多いこともあって、まだ元気な人が多く、外出やドライブをして外食する行事も多い。又、ホームの行事(憩いの家祭り、ミニコンサート参加、納涼流しそうめん大会、花火大会、岡山空港見物等)も積極的にして、利用者と家族も楽しそうだ。これから、利用者の現在の状態をどう維持していくか、脳の病気は進んでいっても、生活面に表われる状態をどう良くしていくかのケアは、病気から考えた点と人間として考えた点をよく勉強して、総合的に見た良い状態を維持するチームケアを考え、実行していかねばならないと思う。この事は現在から考え、実行しておかないといけないし、ホームとしての認知症ケアの方針として、しっかり樹立しておくことが必要となろう。利用者には一日一日を楽しんでもらいながらケアをしていける方法を考え、それぞれの人の“自分らしい生活”が実現していけたら、素晴らしいと思う。

特に改善の余地があると思われる点

ホームは家庭的な環境、家と同じような生活と良く言うが、利用者本位の生活を実現していくことは、家庭と同じものでなく、ケアのプロ集団の行うものは家庭では出来ない人間性豊かな生活ができる場づくりと考えて欲しい。ホームは家庭でも出来ない、病院や大型施設でも出来ない人間回復のできる唯一の場であるという誇りを持って、これからのホームのあり方、認知症ケアのあり方を研究していただきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念については改善事項はないが、毎年のユニット毎の目標は作り、その実現のために職員の間でしっかり考えていこうと、地域にも浸透させる重要性は色々なミーティングで議論していこう。</p> <p>2、全体的に見て…：1年目の目標は「落ち着いて援助していこう」だった。利用者の話をよく聞き、その人を発見していこうとすることは、認知症の人に限らず、人間関係を築くための手段としてコミュニケーションは、それぞれの人の心の通いが原則である。利用者はグループホームの中に入ると、そこでも生活は自由だと言っても、職員と利用者、利用者同士が腹の底から話しをすることは仲々できていない。まだ話しも出来る人が多いので、一日の中で10～15分で良いから、しっかり話しをするきっかけは作ってあげて欲しい。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：立派な建物や設備を造っているのだから、これを改善していくところはないだろう。利用者が入所する前に色々の改修をしたそうだが、今から利用者や職員が使いこなしていくための改良を積み重ねていかなければならないだろう。現在より更に認知症の人が住む空間であり、設備であることを念頭に置いて一つずつ改良していこうと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：建物の外観や庭、屋内のレイアウトと設備を見ると、認知症の人が住み慣れるにはまだ考えていかなければならない所もあると思う。一階の浴槽は石張りの立派な造りで、温泉に行ったような気分になる。現在は、両ユニットの人が一緒に入浴しているそうで気持ち良いと思う。入浴介助が必要になった時にはどうなるのだろうかと思った。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：1年目で、ケアマネジメントを始めたばかりなので、特に改善して改めもっと良くしていこうとする所はないが、介護計画の作成や、記録類などは、現在のシステムを利用者の生活や支援にどう活かしていくかをしっかり考えて使う必要がある。又、ケアの基本(人格の尊厳、意思や感情の表出、能力の発揮などから自分らしく生きるための手段等)をしっかり把握しながら、認知症ケアをチームケアとして確立していくには、一步一步じっくり進めようと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：職員の利用者への関わり方やコミュニケーションを見ている限り、認知症ケアについてはまだまだこれからと云う感じを持った。理論と実践に関しては、利用者との関わり一つひとつの事例を職員間で良く話し合い、研修や業者間の交流を深めて身につけていかなければならないだろうと思う。今からがこのホームの確立を重ねていくという考えで頑張っていって欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：家族との連携や地域との連携についてはこれからだろうと思う。運営推進会議の効果を活用し、行事などの家族の参加を促しながら、じっくりスクラムを組んでいく体制づくりは今からである。これは一朝一夕にはいかないのだからじっくりと腰を据えて取り組んでいくであろう。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者のホームへの思い、親会社との連携等を見ると、ホームに対する支援は十分に行われると思う。ユニット会議、リーダー会議、ケアプラン会議をして、職員とのコンセンサスを十分にとっていこうとしている。又、上司の哲学、部下の哲学というテーマで感想文を書いたそう、それぞれの立場の気持ちを明らかにしておくことは大切である。それ以上に利用者や家族とのコミュニケーションをしっかりと、抽象的な言葉でなく、具体的な且つ客観的な目標を持ってケアやサービス提供に活かしていってほしい。</p>		